

各地からの たより

各地の取り組みを
ご紹介します

- 津軽森林管理署金木支署
- 宮城北部森林管理署
- 仙台森林管理署
- 技術普及課

平成28年度国民の森林づくり 推進功労者に対する感謝状贈 呈式及び活動報告会を開催

宮城北部森林管理署
仙台森林管理署
技術普及課



活動報告会の様子

林野庁では、毎年度、国有林をフィールドとした森林づくりや森林環境保護等に顕著な功績があつた方々に対し、林野庁長官より感謝状を贈呈しております。また、東北森林管理局においても、長官感謝状に準じて東北森林管理局長より感謝状を贈呈しているところ
今年度は、宮城県仙台市の「里山ねっと赤坂」(平成21年度局長感謝状受賞者)に長官感謝状と同じく仙台

市の「特定非営利活動法人 森林との共生を考へる会」に局長感謝状を送ることとし、6月28日(水)に仙台森林管理署において感謝状贈呈式を開催し、その後、両受賞者より国有林等における活動状況についてご報告をいただきました。

各受賞者の功績は次のとおりです。

「里山ねっと赤坂」は、里山体験活動や環境整備活動を通じて地域のコミュニティづくりや自然環境保護への貢献を目的として平成16年10月に設立され、平成17年1月に仙台森林管理署と遊々の森「蒲沢里山体験の森」の協定を締結し、毎年、遊歩道整備、ゴミ不法投棄防止活動、季節ごとの自然観察会、下刈等の林業体験活動等に取り組んできました。このほかに、広報紙の発行やホームページによる積極的な情報発信、小中学生への環境教育等も行っており、国有林をフィールドとした活動を通じて、地元小中学生や地域住民に対し自然環境保護を普及啓発することにも、自然に親しむ機会を長年にわたり提供し続け、地域のコミュニティづくりに大きく貢献されました。

「(特非)森林との共生を考へる会」は、「健全な森林の育成、森林文化の復権、国産材の利用促進」を目的に平成13年4月に設立され、平成18年から平成22年にかけて、宮城県石巻市の金華山において、松くい虫被害および

二ホンジカの食害跡地の森林再生を目的として、クロマツ約一万本の植栽と下刈を数多くのボランティアとともに実施しました。また、平成22年から平成27年にかけては、宮城県栗原市栗駒地区において、岩手・宮城内陸地震で被災した森林の再生を目的として、広葉樹千二百本以上の植栽をボランティアとともに実施しました。さらに平成25年からは、宮城県仙台市荒浜地区において、仙台森林管理署と「社会貢献の森」協定し、東日本大震災の津波で被災した海岸防炎林の再生を目的としてクロマツの植栽や下刈を行っています。このように国有林の森林被害跡地において、長年数多くのボランティアとともに森林再生活動を行っており、森林環境の保全とその普及啓発に大きく貢献されました。

感謝状贈呈後の活動報告会では、「里山ねっと赤坂」の和田伸太郎代表より「活動を通じて、地域の人々が身近に素晴らしい自然があることに気が付き、自然に親しむようになり、また人々のつながりが生まれました。この受賞を励みに今後も活動を続けていきたい」と意気込みの言葉がありました。これからこのような国有林をフィールドとした活動を通じて、国民参加の森林づくりが一層推進されることを期待します。



前列左から春日宮城北部森林管理署長、「森林との共生を考へる会」菅原理事・阿部副理事長、仙北谷技術普及課長、「里山ねっと赤坂」和田代表、齋藤仙台森林管理署長、「里山ねっと赤坂」橋副代表、後列は受賞団体のその他の出席者の方々

環境美化活動と 木の出前授業

技術普及課

7月13日(水)、秋田市立中通小学校と東北森林管理局との協働により、4年生の児童38名が木製のプランターに花の苗を植え、同校構内と当局庁舎正面に展示する「環境美化の集い」を実施しました。この取組は、植物とのふれあいを通じて児童の豊かな心を育てることを目的として、平成14年度から実施しているものです。またその前段として、プランターの材料でもある木材について児童にも「木の出前授業」を行いました。



「木の出前授業」の様子

可能であり、利用すると地域活性化や地球温暖化防止にもつながるなど、人や環境にやさしい素材であることを説明しました。授業はやや難しい部分もありま

したが、児童は興味をもって観察を行ったり説明を聞いたりしており、特に「世界一重い木」と「世界一軽い木」の比較実験では歓声があがるなど盛り上がりを見せました。

この授業をきっかけに、児童達が木や自然に対する興味を持ち、人や環境について考えられるようになってくれればと考えています。

授業終了後は、屋外に移動して木製プランター50個にマリーゴールドやブルーサルビアなど6種類の花の苗を植え、土の入ったプランターは大人でも持ち運ぶのが大変な重さでしたが、児童が2人ペアになり校内だけでなく局庁舎まで一生懸命運んで展示してくれました。



環境美化活動の様子

これらのプランターはこれから秋までの間風景に彩りを与え、見る人の目と心を楽しませてくれることと思います。

地方公共団体 ボランティア団体等と連携しクリーン作戦を実施 (流域管理システムの推進に向けた取組)

津軽森林管理署 金木支署

当支署管内の十三・五月女池(そとめやち)地区は、日本海からの風が強く、後背地に集落及び耕作地等があることから一帯を防風保安林に指定しています。

また、周辺には大和しじみ(十三湖しじみ)の主産地として注目を集めている「十三湖」やプラネタリウムなどの施設がある「中の島ブリッジパーク」などの観光施設があり、多くの観光客が訪れるエリアとなっています。

この五月女池地区防風保安林付近の海岸には、以前から不法投棄されたゴミや海からの漂着ゴミが散乱し、保安林機能等への影響が懸念されたことから、当支署の流域管理システムの推進に向けた取組として、景観及び保安林の公益的機能維持・向上のため、5月31日(火)、クリーン作戦を実施しました。

クリーン作戦の実施に当たっては、五所川原市の全面協力を得るとともに、ボランティア巡視員・国有林モニターを含む総勢56名で行いました。

空き缶・空き瓶等の漂着ゴミに混じり、テレビ・チャイルドシートなどの不法投棄も見受けられました。参加者の皆さんは、海岸と防風保安林内のゴミを拾い集め、重いゴミはお互い協力し合いながらスムーズに作業を進めたことで、元の美しい海岸・保安林となり、無事クリーン作戦を終了することができました。



ゴミ収集車へ集める人々

当日収集したゴミの量は、ゴミ収集車1台・軽トラック1台にもなりましたが、五所川原市の協力で廃棄物処理場で処分していただきました。

当支署としては、このクリーン作戦を継続的に進めることで地域住民の方々に広く不法投棄の防止を訴えていくことが重要と考えており、今後においても、地元自治体・ボランティア等関係機関と連携を図りながら、不法投棄防止のPR活動や海岸防風保安林の保全及び公益的機能の維持・向上に努め、「美しい海岸林」を後生に継承していきたいと考えております。



クリーン作戦参加者で保安林の保全及び公益的機能の維持・向上に努め、「美しい海岸林」を後生に継承していきたいと考えております。

仁別森林博物館で 森林鉄道展を開催

技術普及課

7月16日(土)から8月29日(月)まで秋田市仁別にある仁別森林博物館2階の企画展示室において、企画展「森林鉄道展」を開催しています(入場無料、休館日は火、水、木、但し8月11日(木)は開館)。

森林鉄道は、明治42年日本で初めて導入され、昭和40年頃まで活躍しました。丸太を運ぶだけでなく、地域の人々の交通手段としても大変重宝されました。

秋田市仁別では、明治42年(1909年)に秋田停車場(秋田駅)東側を起点にして仁別林道事業所付近(仁別字家八ツ)まで12.3kmの森林軌道が開通し、その後も新設延長しながら、旭又、軽井沢、砥沢、奥馬場目方面まで森林軌道が延びました。

この森林鉄道展では、特に秋田県内の森林鉄道を集集し、当時の写真や開設から廃止までの路線図などの資料を展示して紹介しています。



森林鉄道展の写真展示

また、博物館の入口には大正10年にアメリカのボールドウィン社で製作された蒸気機関車、そして博物館内には昭和39年まで旧能代宮林署仁耐製品事業所で活躍したディーゼル機関車酒井ポーター式8t機を常設展示しています。

展示を見た来館者の方からは、「森林鉄道の時代と林業の盛んな時期の頃の様子が味わえた。」「貴重な資料が色々あって興味深かった。」などの声が聞かれ、森林鉄道への関心の高さを感じました。



森林鉄道展は学校の夏休み時期に合わせて開催していますので、この機会に家族そろって仁別森林博物館や仁別国民の森を訪れてみてください。